



地震の影響で、地盤がずれてしまいました

～東日本大震災支援活動～

「パラソル喫茶」体験バスツアーに参加して

12月8～9日に、東北の被災地 仙台へボランティアに行ってきました。昨年3月11日の震災後から、機会があれば是非現地に行って何か役に立てればと思っていたので、ようやくその願いが叶いました。今回の活動は主に、仮設住宅などに移住されている方々のお話しをお伺いして、ストレス発散して頂いたり、風評被害にあって経営が難しくなっている旅館に宿泊して、私たち自身も癒されよ

うとうという趣旨のもとで行動しました。

宿泊場所は福島県の飯坂温泉という所で、昔は有名な温泉街として大変栄えていた場所なのですが、3月11日以降は客足もめっきり途絶え、寂しい雰囲気が漂っていました。土曜日のいわゆる書き入れ時にも関わらず、食堂や居酒屋が立ち並びメイン通りもほとんど人がいませんし、お店も閉まっている状態でした。私たちはそこにある旅館に宿泊し、温泉にも入ったのですが、本当に気持ちよく癒されました。露天風呂から見える雪景色は大変美しく見事でした。もし風評被害さえなければ、今でもきっと栄えていたのでしょう。



趣のある宿泊施設

非常に残念な気持ちになりました。

次の日は仮設住宅に訪問して、実際に住んでいらっしゃるお宅にお邪魔させていただき、話を聞くことができました。私自身全く知らない人で、なおかつ大変な被害に遭われた方との会話ということで、失礼な質問をしていないか、緊張しながら臨んだのですが、思っている以上に皆さん明るく元気でした。

ただ、震災当時の話しになるとその内容は大変悲惨で、話しながら涙ぐむ場面もありました。中には家族全員を失い、今は一人で仮設住宅に暮らしているという、80歳近い女性もいらっしゃいました。ただみんな気持ちは前向きで明るく、逆に私たちが元気をもらっている感じでした。



震災のつめあと。街灯をへし折る津波の威力！

とにかく皆さんおっしゃるのは、「たくさんこっちに遊びに来て欲しい。そして話を聞いて欲しい」とのことでした。話すことで気分転換にもなるし、一人じゃないと思えるから何度でも足を運んで欲しいということでした。

今回のボランティアは一泊二日という大変短い時間でしたが、自分の人生にとってすごく勉強になり、大変貴重な経験でした。

(オカピドライバー 信夫洋介)



わっぱ飯、おいしかったです♡



裏もご覧下さい



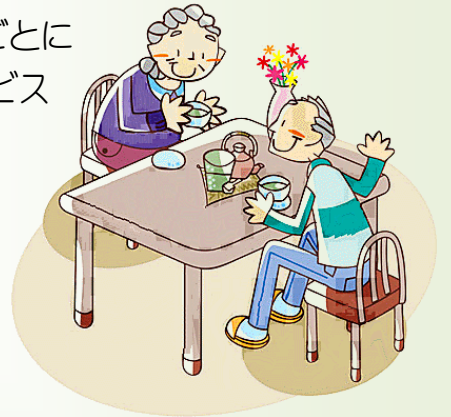
介護のはてな？ 第7回「サービス付高齢者住宅」

有料老人ホームについては「総量規制」という枠がかかるようになり、地域によっては新設しにくくなってきた一方、「サービス付高齢者住宅」という新たな形態が、厚生労働省と国土交通省の肝いりで、23年10月から始まりました。単身独居または、高齢夫婦のみの世帯が急増している事態を受けての施策だそうです。介護施設への入所待ちの中に、要介護度の低い方がかなり含まれ、日々の生活の不安増が想定されているためです。

形態は賃貸住宅であり、敷金はありますが、高額な入居一時金は不要です。構造はバリアフリーが原則。付随するサービスは住宅ごとに異なりますが、最低限、安否確認・緊急通報・生活相談のサービスがつくことになっています。要介護支援の方は通常の在宅と同じように介護保険サービスが利用できます。

入居できるのは60歳以上の者、もしくは60歳以下でも要支援要介護認定を受けていれば可。同居者がいるなら、配偶者、60歳以上の親族、もしくは60歳以下でも要介護要支援認定を受けていれば可。60代の息子さんが、90代のご家族を介護しているような世帯や、高齢夫婦、あるいは高齢単身独居の世帯の入居が想定されているようです。

日本は、超高齢社会になると喧伝されていますが、“人手によるサービス”もしくは“施設”が優先されてきて、住まい環境の面ではわずかな住宅改修(介護保険)での対応でした。“住まい・環境”のサービスとしての高齢者住宅は介護保険のない国でも進んでいるそうです。今の持ち家での在宅だけではなく、高齢になった自分に住みやすい家・環境を選択して、積極的な在宅を手頃な価格で実現出来るといいですね。



オカピ号冬支度 ♪

2012年も残すところあとわずかとなりました。たすけあいあさひが所有する福祉車両(オカピ号)もスタッドレスタイヤへ交換し、冬支度を始めました。

今年1年、オカピ号をご利用下さった皆様、ありがとうございました。

また新年から、ご利用を考えていらっしゃる方にも安心して乗車していただけるよう、スタッフ一同心からお待ち申し上げます。



手前から、3号・5号・6号・2号・1号車

雪道に備え、スタッドレスタイヤに。

